

第9回アクラスZOOM寺子屋 感想

1	<p>年末年始にご著書を拝読したのですが、本日参加したことで理解が深まったり、また新たな疑問が生まれたりしました。三位一体モデルについて、自分で考えてみる、考えたことを言語化して可視化してみる、それを他の人と共有して対話を重ねブラッシュアップしていくことが大事で、そうした機会が日本語教育の現場にたくさんあることが大事だなと思います。機会があれば三位一体モデルワークショップに参加してみたいです。また自分自身もそういう場づくりをしていきたいと思っています。</p>
2	<p>書籍も読み、ほかの回にも参加しましたが新たに学ぶことがたくさんありました。ありがとうございました！</p>
3	<p>今日のお話を興味深く拝聴させていただきました。「理念とは？」ということでプレー九アウトルームでも有意義なディスカッションができ、普段、頭の中でモヤモヤと考えていることを皆さんと言語化することで、すこし具体化してきました。理念はメインの1層なのではなく、何層にも広がっていくもので、それが方法にも絡み合っていくような気がしました。また、嶋田先生がおっしゃった「学生と社会」のみにフォーカスするのではなく「教師自身と社会とのつながり」にも注目することが大切なのだと実感しました。学生はよく教師を見ているんですね。このような省察の機会を与えていただき、ありがとうございました！</p>
4	<p>私が忘れられない言葉に、養成講座時代の講師に言われた「日本語教師には『哲学』がない」というのがあります。今日のお話を聞いて、日本語教師としての「理念」は、この「哲学」のことではないかと思いました。 実は最近、なんとなくモヤっとした思いで仕事をしてきて、今日もその気持ちのまま参加しましたが、結局のところ、最後の嶋田先生の総括にあった「日本語教師である以前に『私』という人間はどう生きたいのか」で迷っているのではないかと気づきました。 私の中では「三位一体モデル」は、館岡先生が提示されたモデル形式よりも、「理念」「方法」「フィールド」の3つの○が重なるイメージがしっくりくると思っていましたが、嶋田先生がおっしゃっていた「教師自身がどう社会と関わるか」が重要だと考えれば、やはり館岡先生のモデル（特にマトリョーシカ）がわかりやすいと思いました。 まだ自分の中では考えがまとまりませんが、考えるヒントをいただきました。ありがとうございました。</p>
5	<p>三位一体、とても考えさせられました。また、グループワークで一緒したお2人との話し合い、「対話」ということの必要性、重要性をコロナ禍の中で薄れていることもあり、改めて痛感しました。「日本語教師としての理念」また、「フィールド」など、様々なフィールドでのレッスンに携わっておりますが、「自分の理念」と言うものをどこまで・・・働く環境、所属先の方針などのしがらみから、「まげて」と言う状況下での仕事が多いのではないのでしょうか。「顧客満足度」と言うことを「アンケート」などから重視され手いる方も多いようです。が、やはり、「自分の理念」を持ち、「メタ」「省察」「振り返り」等々、常に自分・学習者などを見ていくこと、今後も続けていきます。感慨深いものがあした。新年になたり、「大きな課題」をいただいた気持ちです。感謝申し上げます。</p>
6	<p>「日本語教師って何をする人だろうね」という問いから始まったという、NKS研究会の先生方の思考の旅に仲間入りさせていただいたようなひと時でした。抽象的で難しく感じる部分もありましたが、ブレイクアウトルームで一緒したみなさんとの対話によって、理解が深まった気がします。 私のフィールドは田舎の小さな日本語学校ですが、日ごろから学校と地域とのつながりを意識してやってきました。年の初めに嶋田先生からパワーをいただき、今年も頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。</p>

7	<p>教育観がない、あるいは明確に意識していないというケースは多いと思います。また、「私は～という教育観がある」という場合でも、それをメタ的に見ることができていないと、独善的になっていたり、教育観と実践（そのフィールドで選択する方法）に一貫性がなかったり、社会とのつながりを欠くというようになる。</p> <p>メタ的に見るというのは省察するということで、そのためには対話が有効とのお話がありましたが、専門性のある？日本語教師の共同体を目指すのであれば、やはり対話が自由に積極的に行える場づくりが必要であると感じました。</p>
8	<p>第9回アクラスZOOM寺子屋に参加させていただき、どうもありがとうございました！</p> <p>「三位一体モデル」という考え方に大変興味を持ちました。機会がありましたら是非ワークショップにも参加させていただきたいと思います。</p> <p>非常勤日本語教師であれば、複数の「フィールド」を行き来しつつ「理念」は一貫している、という点で共感いたしました。しかし、「方法」は学習者によって変えていくことが必要があり、「日本語教師の専門性を考える」P.101、下から5行目に書かれているとおりに思います。</p> <p>松本さんの事例に関して</p> <p>私は松本さんとほぼ同じ環境で非常勤日本語教師をしていました。専門学校介護福祉学科です。日本語教育ではない介護専門の教務主任、専任たちと留学生の日本語教育について対話する機会が何度かありましたが、毎回すれ違いでした。彼らは、日本人である日本語教師が母語である日本語を日本で教えていることに対して何ら専門性を感じていません。介護の専門知識を有する彼らが留学生の日本語も教えられる、という意識でした。</p> <p>現在、介護老人福祉施設の非常勤職員として介護の技能実習生に日本語指導をしています。「日本語教師の専門性を考える」第14章の事例と似ています。こちらでも、外国人材と働く日本人スタッフの「日本語でのコミュニケーション」に対する意識は低いです。技能実習生たちが「大丈夫」と言っているから何も問題ないと。しかし、実習生たちは日本語教師である私に悩みを打ち明けてきます。日本人スタッフは外国人材に向き合い、同じ仲間としてサポートする意識があるのかなのか、こちらには伝わって来ません。</p> <p>日本語教師とは何なのか、何ができるのか、今も自問自答しています。</p> <p>セミナー最後に嶋田先生がおっしゃった「教師自身が社会とつながっていかなければ」というお言葉で「また頑張ろう」という前向きな気持ちになりました。ありがとうございました！</p>
9	<p>日本語を教える機会が得られれば、どんなフィールドであっても、目の前の学習者に自分なりによいと思われる方法で日本語を教えてきました。こんな状況で「私って専門性がないなあ。中途半端だなあ」と思うことがよくあります。今後もいろいろなフィールドを平行して教えるパターンが続くと思われそうです。</p> <p>本日の研修を通して、どんなフィールドであっても、日本語教師として自分なりの理念（軸）を持ち（持てているか？）、社会の中での己の立ち位置も意識しながら続けて行けばいいのかなと思えました。</p> <p>また、介護の現場での日本語教育の難しさのお話なども聞いて、それぞれのフィールドにおける日本語教育の難しさなど知ることもできました。</p> <p>貴重な研修をありがとうございました。</p>
10	<p>自分は専門性のある日本語教師と言えるのか、そう悩んでいる中で参加しました。講師陣の先生をはじめ、参加されていた先生方は理念を持たれた素晴らしい方ばかりで、一緒にお話しが出来たことをとても光栄に思います。学習者に日本語を通してお互いの意義を見いだしていく、また社会と繋がり教師が自分に問い続けること、振り返りをしながら何を目指していくかを考えることの大切さを改めて考える機会となりました。まずは話すこと、言語化していくことを止めずに続けていきたいと思っています。ありがとうございました。</p>

11	<p>日本語教育には遠い学生時代から今までいろいろな形で関わったり少し距離を置いたりして現在に至りますが、自分の日本語教育観を人に話したのは初めてだった気がします。人に何かを話した後に、そういえばこんなこともあんなことも、と浮かんでくるのはいつものことなのですが、今回も理念について考えが深まってきているのを感じます。私にとって理念には上位コードと下位コードがあり、下位コードが方法、フィールドにつながると同時に三位が往還しているような構図だと思いました。また、私は現在国語教育にも携わっているので、ことばの教育についても俯瞰的に考える機会を持つことができました。引き続き日本語教師市場（適切な表現ではないかもしれませんが）が逆風の中、専門性について省察できたこと、いろいろなフィールドで活躍する教師仲間と時間を共にしたこと、また当日出た「自己満足」になっていないか客観的、メタ的に捉えるという視点を持たせたことが大きな成果です。ありがとうございます。引き続き精進したいと思います。</p>
12	<p>新人の頃は日々の授業をこなすのにそれこそ必死でした。年数が経つと、教えることには慣れましたが、本当に自分がやっていることは学習者の役に立っているのか、自分がやりたいことは今やっていることなのか、と考えるようになりました。ある程度、漠然と「こういうことがやりたい」と考えている時期だったので、今回のアクラスZOOM寺子屋は本当にいい機会になりました。他の方と話すうちに、ぼんやりとしていた理念が言語化できましたし、私がしていることは社会とつながっていると他の方に言っていただいたことで、初めて社会とのつながりも実感できました。「三位一体」の考え方は、とてもシンプルでわかりやすいと思ったので、現在の職場の同僚にも提案してみようと思います。</p>
13	<p>三位一体の理念についていろいろと考えさせられた貴重な時間でした。自由に意見交換ができ、疑問点を直接著者に伺うことができたことは大変良かったと思います。ブレイクアウトでは日本語教育現場で働いている皆様とじっくりお話ができ、大変勉強になりました。またの機会にぜひ参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
14	<p>Zoom寺子屋に参加させていただきありがとうございました。著者の先生方のお話やワークショップを通して、私はこんな日本語教師でありたいという気持ちを改めて強く持つことができました。</p> <p>1つ目のグループ活動では、三位一体のフレームで互いの実践を語り合いました。自分の教育理念を人に話すのは初めてでしたが、言語化していくうちに、日本語教育を通して、自分が何をめざしているのか、認識を新たにすることができました。また、同じ職業を持つ聞き手がいたことで、共感的なフィードバックをもらうことができ、自分の考えがより明確になりました。著者の方のお話に、対話を経たからこそ省察があったという事例をお聞きしましたが、嬉しいことに私もそれを体験することができました。</p> <p>2つ目のグループ活動では、自分の実践と三位一体をとりまく社会とのつながりについて考えました。グループの方と対話を重ねていくと、教師それぞれの実践（理念や方法）は違っていても、社会とのつながりをメタ的に考えると、学習者の自己実現を助けてあげたいという気持ちは共通しており、とても共感できました。</p> <p>今後も様々なフィールドの方々と、教育理念や実践を語り合い、対話的に省察してみたいと思いました。</p>
15	<p>これまで、日本語教師の専門性というと、対象となる学習者のニーズに合わせてコースデザインする際の教師の能力と考える傾向があったように思う。今回の著書の先生方の対話により、「専門性の三位一体モデル」のあり方が理解できるようになり、参加者との対話の機会を持たせたことで、自分の日本語教育の理念を振り返ることができた。フィールド（学習対象者や分野）により、方法、教授法はそれぞれあつととしても、提唱された三位一体モデルを考えるとすると、理念がずれていなければ、方法は修正可能と思える。</p> <p>しかし、三位一体モデルの日本語教育の専門性も社会、規範などに埋め込まれていて、そこから抜け出せないと、日本社会の中で抑圧的な日本語教育になりかねないということにも、よく注意を払いたいと思った。</p>

16	<p>私は日本語学習者のキャリア支援に関心を持っていますが、キャリアの世界での言い方をすると、日本語教師の専門性とは、日本語教師としての「ありがたい自分」なのだろうと思います。</p> <p>先の読めない世の中であるからこそ、ありがたい自分を考えることが生きる力につながると言われていますが、館岡先生はじめ著者の先生方が、日本語教育の世界にも同じ風を吹き込んでくださっているのだろうと感じました。</p> <p>教師の専門性の成長を支援することで、学習者のキャリア形成についていっしょに考えられる仲間を増やせたらいいなと決意を新たにしました。新年1回目にふさわしいテーマでの研修会、ありがとうございました。</p>
17	<p>日本語教師と言っても、置かれている様々な環境で「三位一体モデル」が表す意味は拡大し矢印も複雑化する。そして、この考えの前提に教育者と学習者は対等の関係であり、いつでも両方の視点からこの「三位一体モデル」を捉えなければいけないだろう。いつも学会や勉強会で感じるのは、先生方は「教える立場」から一方向に自身のあるべき姿、教育観を省察し、議論を進める傾向があり、やや違和感を感じる。今回の対話を通して、「私」について、客観的に見直し、「私」について聞き手に話す時間を持った。短い時間だったので、まだクリアにはなっていないが、普段このような機会を持つことは簡単ではないため、十分に大きな意味があったと感じる。貴重な時間をいただき、感謝しています。ありがとうございました。</p>
18	<p>今回は館岡先生が他のお話も大変、興味深く拝聴しましたが、ブレイクアウトセッションに多くの気づきがありました。海外で教えている先生、地方で教えている先生、そして東京の日本語学校で教えている私。バックグラウンドは様々ですが、共通していたのは、「学習者が主体であること」そして、「日本人、あるいは日本とうまくつながること」でした。日本語を教えるにあたっての「理念」というのは、ここ最近、しっかりと考えたことのないものでした。日々の授業に追われる中で、言葉にはしていないけれども、私の中でその「理念」らしきものは、しっかりとあるのだなということをブレイクアウトセッションを通じて再認識しました。普段は忘れていることですが、時々、私の中にある「理念」を省察し、加筆したり、修正したりすることが大事なのだと思いました。更新しない「理念」には何の進歩もありません。</p>
19	<p>著者5名が出席する新春のアクラスZOOM寺子屋に参加でき、とても有意義な時間でした。これから理念・方法・フィールドが一貫性をもって連動する「三位一体モデル」を念頭に置いて実践し、対話をしながら省察できればと思います。ありがとうございました。</p>

20	<p>著者の方から直接お話を伺えるという貴重な機会を与您いただき、ありがとうございました。</p> <p>日本語教師の専門性とは何かとあちこちで議論されていますが、明確な答えはなく、昨年度開講した日本語教員養成課程で育成すべき人物像をどのようにとらえ、学生たちを導いていけばいいのか思案していました。参加の動機は、養成する側からの視点でしたが、著書を読み、寺子屋に参加したことで得たことは、自分自身を振りかえることでした。自分は何をしてきた何者であったのか、いつから「日本語教師」と言えたのだろうか。</p> <p>第1部はうなずきながら、第2部は平成に入ったところから関りはじめ今に至った自らの道程と重なり、また、一緒に関わってきた日本語教師やボランティアの方々が次々と目に浮かんで来て、なかなか先に読み進むことができませんでした。</p> <p>そして、第3部の提案。「自分の理念」に向き合った時間でした。三位一体モデルは、個々の内省に因り行われるものですが、「どんなフィールドに行っても・・・自身の目指す日本語教育観を軸として自らの経験や持てる力を総動員して・・・」(p.104)の行に力をもらいました。「軸」はあるのか、ちゃんと考えてやっているのか、そういったことがあれからずっと頭によぎっています。</p> <p>。今日、9年日本に住んでいる韓国人の女性と話をしているとき、「自分の子どもは学校に来た日本語の先生がいたから、途中くじけずに大学まで行きました。あの先生は高齢で、大丈夫かなと最初は思っていたけど、息子の話をちゃんと聞いてくれて、息子に合わせていろんなことを教えてくれたので、息子は日本語の先生を信頼してどんどん上手になっていきました。」</p> <p>この話を聞いたとき、その日本語の先生には「軸」があったのではないかと感じました。専門性を高めるためには、自身の日本語教育を言語化し、自分が何をしている何者なのかを自覚することが必要で、三位一体モデルは有効に活用できるのではないかと思います。</p> <p>三位一体モデルについて、さらに具体的にご教示いただく機会を持つことができればと考えています。その節には何卒よろしく願いいたします。</p> <p>最後に、フィールドの違う方々とのワークはとても楽しかったですし、貴重な時間でした。今回の企画に心から感謝申し上げます。</p>
21	<p>これまで「日本語教師の専門性」について漠然と捉えていましたが、著者の先生方のお話を伺ったり、参加者の皆様とディスカッションしたりできたことは、自分自身を振り返り頭の中を整理するきっかけになりました。社会との繋がりについて考えることの大切さについても再認識できました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。</p>
22	<p>日本語教師として資格を取る前は日本語を教えるのが仕事だと考えていました。そして日本語を教えるというのは文法を教え話すための使い方を教えるというものでした。しかし、実際は少し違うと感じていました。授業は確かに日本語を教えることなのですが、季節のイベントがあり留学生たちは進学、就職のために準備をします。その一環で面接対応などしていると日本語の文法や使い方だけではなく日本文化の理解をすすめるだけではいけません。そして自身も留学生の文化を理解する必要があると考えるようになりました。最近では日本語を学習したいという留学生の背景がさまざまなためさらに日本語教師のフィールドも多様になっていると感じます。ぼんやりと日本語教師の役割って何だろうと思うようになっていました。ですから著書を拝読し三位一体モデルについて触れたことでスッキリと方向性の見つけ方が分かったように感じています。自分自身の三位一体モデルを考えて書き換えていきたいと思っています。また、ワークショップをされているとのことですがぜひ、参加したいと思っています。</p> <p>嶋田先生、回答が遅くなり失礼しました。よろしく願います。</p>

23	<p>著者の皆様から直接たくさんのお話を聞ける、貴重な機会をありがとうございました。多くの気づきをいただきました。ありがとうございました。</p> <p>また、自らの教育理念を見直せたこと、ワークで他の方のお話やご意見を聞いたことから、忙しい毎日ではぼんやりと考えていたことが、明確になりました。省察の機会を、短期的にも長期的にも自分に課していきたいと思います。</p> <p>また、教育と社会のつながりを意識することの重要性を肝に銘じ、フィールドで学ぶ学習者に有益に還元してまいりたいと思います。</p>
24	<p>日本語教師の仕事のフィールドが多岐にわたっている昨今、とても興味深いテーマでした。</p> <p>日本語教師の仕事の理念、どんな教育をしたいのかはフィールドが違っていてもしっかりとしたものを持たなければいけないと再度心に刻む機会になりました。対象が留学生であれ、介護職の方であれ、ビジネスパーソンであれ、それは一本芯の通ったものでなければならないはずですが、対象が違えばブレがちになります。</p> <p>またブレークアウトで違うフィールドでお仕事されている方と話し、日本語教師の仕事の内容や意義をもっと社会に知らせる必要も感じました。同じフィールドで、他の職種の方との連携の必要をどのように訴えていくかという話が出て、その点を強く感じました。</p>
25	<p>以下が今回の勉強会で考えたことです。貴重な学びの時間に参加させていただき、ありがとうございました。</p> <p>日々、教育実践を行う中で、「もやもや」や「ゆらぎ」を感じながらもやり過ぎしてしまうことが多いのが現状である。その、ふと、ひっかかることを問題提起し、真摯に見つめていく作業の大切さを思った。標題として提示された、三位一体（「理念」と「方法」と「フィールド」の3つの観点を行き来しながら考察と実践をなす）を一つのシステム、枠（フレームワーク）として捉えたい。教育現場というのは常に進行形であり、たとえば、私にとって「理念」とはビリーフであり、「方法」とは流動的で、古きをたずねながら常に新しいものを求める温故知新のようなあり方のものである。「フィールド」が多様に存在していることは周知のことである。この3つのフェイズは、学ぶ側の主体性・自律性を涵養すると同時に教える側のそれも醸成していくことで成り立つものではないだろうか。そもそも教育の場はライブであり、「人」が交流することで互いに影響しあうものである。ふれあいながら共に成長していく過程が教育実践であり、それは絶えず更新されるものである。こういう視点からは「理念」決して固定的で大上段に構えたものではなく、むしろその柔軟性を核として教育に携わる者が学生に働きかける「愛」と「情熱」であると考えた。</p>